

## 第 22 回 最先端医療イノベーションセンター 定例セミナー

日 時：2018 年 12 月 19 日（金）18:00～19:00

場 所：最先端医療イノベーションセンター棟 1F マルチメディアホール

○セミナー要旨： 本講座では移植細胞及び免疫細胞の品質管理技術の確立を目指して研究を行ってきた。特にエネルギー代謝は細胞の機能、生存に重要である。さらに免疫制御技術の研究から、新たに糖鎖修飾改変による免疫細胞の品質制御法を見出した。本セミナーではそれぞれの基礎研究を紹介するとともに今後の臨床応用へ可能性について紹介する。

演題・講師：

○演題：パーキンソン病原因遺伝子とミトコンドリア代謝

講師：豊福 利彦 免疫再生制御学共同研究講座 特任教授

○演題：糖鎖修飾改変 T リンパ球による癌免疫細胞療法

講師：笛渡 繁巳 (株)メディネット先端医科学研究所 所長代理

座 長：豊福 利彦 免疫再生制御学共同研究講座 特任教授

---

◇最先端医療イノベーションセンター 研究開発プロジェクトについて

(最先端医療イノベーションセンターHP より抜粋)

- ・「再生・細胞医療における移植細胞に対する免疫制御技術の開発と品質管理技術の応用開発」  
(A-2 プロジェクト)

再生医療において iPS 由来細胞を使用した再生・細胞医療技術の臨床応用への取り組みが本格化しています。一方、移植後の iPS 細胞由来移植細胞のレシピエント内での定着率、長期生存を維持するメカニズムは十分に理解されていません。iPS 細胞から誘導した細胞や組織においても、誘導・分化が不十分な際には内なるストレス物質が生じ、移植時に炎症反応を引き起こす可能性も指摘されており、今後の再生・細胞医療の成否にとって極めて重要な研究テーマです。当講座では iPS 細胞を使用した再生医療研究を免疫学的観点より解析を行い、再生医療が真に移植医療の代替えとなりうる治療法を確立します。